

★和言葉

やまと ことば

漢語や外来語が入る前から日本語にあった単語。和語とも。

いにしえ「古」【過去】

今は、いにしえと昔は同じ意味と考えられていたが、元々は、いにしえは自分が生まれる以前の過去、昔は自分が生まれてからの過去、と使い分けられていた。

うたかた「泡沫」【水に浮かぶ泡】

消えやすくはかないことを表す。「うくたまたか(浮玉形)」、「うつかた(空形)」などの語源説がある。

おくゆかし【もつと知りたい】

女性の控えめな感じを表す言葉となっていて、本来の意味は、「ゆかし」は「行きたい」で、奥に迄心が行きたい状態を知りたいということを表す。

かざはな「風花」【晴天に舞う雪片】

花は桜。晴れた空に舞う雪を桜の花びらに見立てた言葉。他に、雪を花にたとえた言葉に「銀花」「天花」「六の花」などがある。

はなむけ【送別・饯別】

はなむけは、旅立ちや門出のときに、馬の鼻をこねから向かう方向へ向けることからきた言葉。「はなむけの言葉」はこれから去っていく人に送るもので、歓迎の意味で使うのは誤り。

まどろむ「微睡む」【うとうとする】

語源は、「目とろめく」「目とろむ」などから。

みどり【若々しい・みずみずしい】

緑の色ではなく、新芽のように若々しい様子を表すときの言葉。「みどりこ(嬰兒・生まれたばかりの子ども)」「みどりの黒髪(黒くてつやのある髪)」など。

もてなす【振る舞う】

語源は「持て」+「成す」で、人を取り扱う、待遇するということ。現代で言う「おもてなし」は、そこにお客様への心遣い、接待や歓待の意味が多分に加味されている。

七月歳時記 二十四節気 七十二候

●7日(土) 小暑 暑い夏の始まり

- 【温風至】「あつかぜ、いたる」…… 熱い南風が吹いてくる
- 【蓮始開】「はす、はじめてひらく」… 「蓮は泥より出でて泥に染まらず」(中国の成句)
- 【鷹乃学習】「たか、すなわちわざをならう」…… 鷹のヒナ、一人前になるために

●23日(月) 大暑 徐々に猛暑へと

- 【桐始結花】「きり、はじめてはなをむすぶ」… 桐は日本政府の紋章として使用
- 【土潤溽暑】「つち、うるおうてむしあつし」… 草木は緑を増し、蒸し暑くなる
- 【大雨時行】「たいう、ときどきにふる」…… 昔は夕立の後、涼しくなったけど……